
まさかの異世界旅行記

谷華御簾砂雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まさかの異世界旅行記

【Nコード】

N7877K

【作者名】

谷華御簾砂雨

【あらすじ】

「世界はつまらない、生きていく価値もない。でも死ぬことも出れない。だから普通に生きていくしかない、そうしていればなんとか生きていける。……どうせなら植物にでも生まれたかった。そうすればいらぬことは考えないですんだのに」

そんなことを考えながら18年間を生きてきた青年、不知火憐「しらぬいれん」の日常は変わった。一人の少女、レンに出会って変わった。

生きる意味を探す物語（前書き）

下手くそですがよろしくお願いします。

生きる意味を探す物語

いつの頃だろうか自分でも分からなくなってしまうていたが「世界はつまらない、生きていく価値もない。でも死ぬことも出来ない。だから普通に生きていくしかない、そうしていればなんとか生きていける。」

と不知火憐は悟った。

両親が事故死した時からかもしれないしもっと昔からかもしれないでもやはりいつからかは分からなかった。

そんな憐も考えを改めようとしたことがあったがそれはもう昔のことだった。

憐は山口県の大学に通う18歳だ。それは彼にとって普通に大学に通い普通に就職するための過程にすぎなかった。

憐には友達がいなかった。いや友達と認める人間がなかった。共に話しをする人間はいたが、今までどんな人間とも表面上「普通の友達」という関係を保ち、心の底から話し合う友達を持たなかった彼には、ただ話しを交わすだけの人間は友達と認めることは不可能だった。

だから憐にとって大学とは行っては帰るだけの無機質なものだった。そんな中でも日課にしていることがあった。それは夜に近くの公園で星を眺めることだった。

そうすれば心に開いた穴が埋まるような気がしたからだ。

今日もいつものように50?ほどしか離れていない公園に行った。

そして上を向こうとした時だった。

「!？」バリバリと電気を放電したかのような音がした。

音がした方向をみると、なんとそこにある滑り台が途中で途切れている。というよりも上下半分を切り離し上だけを空中に上げた状態になっている。

もちろん、そんなことは有り得ない。

憐は不思議に思い、近づいて見てみた。

「何だこれ…」思わず声が漏れた。

暗闇なので分からなかったが、そこには 暗い穴、または空間の歪みのようなものがあつた。

あまりの事に憐が驚いていると、中から月光に照らされ美しく輝く銀髪の少女が出てきた。

「一体何が…」そのつぶやきに気がついたその少女が言った。「私の名前はレン、久しぶり。」そして間髪を入れず憐に近づき耳元で何かを呟いた。

すると目の前が真っ暗になり始め意識が遠のいて行つた。

遠のく意識の中で憐はその少女が久しぶりと言つた時見覚えがあるのを感じたが、いつ、どこでなのかの答えにたどり着く前に完全に目の前が闇で覆われてしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7877k/>

まさかの異世界旅行記

2010年10月16日00時29分発行